



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3536号 2017.3.1 発行

大人の塗り絵が人気 ストレス解消期待 [福岡県]

西日本新聞 2017年02月28日



「大人のぬりえ教室」で講師の東望さん(左から2番目)のアドバイスを受けながら塗り絵を楽しむ参加者たち
完成した作品はそれぞれの個性がにじむ仕上がりになった



ジュンク堂書店には約200種類の塗り絵本がずらりと並び
インキューブに入る画材店では水彩色鉛筆やキャラクターの塗り絵本が人気だ
塗り絵は子どもの遊び…、だったのは過去のこと。今は大人にも人気な



んです。脳のトレーニングだけでなく、ストレス発散の効果なども期待され、女性を中心に幅広い世代に広がっている。絵の種類も画材もさまざま、決まり事がない自由な世界に夢中になる人が増えているという。手軽だけど奥深いとうわさの大人の塗り絵、その魅力を探ってみた。

1月下旬の昼下がり。福岡市中央区の唐人町商店街にあるカレー&ハンバーグ店「Hono」のカウンター席に5人の女性たちが座り、色鉛筆や水筆ペンを持つ手を一心に動かしていた。誰もしゃべらない。だが不思議なことに、張り詰めた緊張感はない。

開店前の時間を利用して「大人のぬりえ教室」を開いている。下絵は講師で水彩色鉛筆作家の東望さん(39)が季節に合わせて描いて準備する。この日の下絵は植物。絵本作家、いわむらかずおさんの「まっかなせーたー」のワンシーンを参考にしたという。

「外が寒いから、暖色系を使うと温かみが出ていいかも」。東さんのアドバイスを受けながら色を塗っていく。5人に加わり、私も挑戦した。「木の実は何色にしよう」「枝はどう塗ったら立体感が出るかな」…。小休憩をはさんで2時間弱の作業があっという間に過ぎた。参加した同区の立部春美さん(63)は「他のことを忘れて集中できるのが魅力」と話す。色を選ぶ楽しさ、白い下絵が鮮やかな色で埋まっていく心地よさに、私もいつの間にかのめり込み、うっかり取材を忘れるところだった。

完成した塗り絵を並べると、同じ下絵からできたとは思えないほど違う作品に仕上がっ

た。枝の質感にこだわった人、淡い色でまとめた人、背景まで塗った人…。「その人特有の力の入れ方や、その時の感情などがストレートに出るのがおもしろい」とHonoのオーナー岩永京子さん（43）。自身も開店準備のかたわら、約20分で透明感のある作品を仕上げていた。

塗る色、塗り始める場所、塗り方にそれぞれの個性が出る。「人によって違っていいし、違うのがいい」と語る東さんの基本姿勢は、講座の最後に作品の良いところをほめること。初参加だった東さんの母親の東怜子さん（76）は「好きなように色を使っていいと学びました」と塗り絵の妙味を存分に体感した様子だった。

専門家も塗り絵を、脳のトレーニングやストレス解消の手段として勧める。杏林大の古賀良彦名誉教授（精神生理学）によると、下絵や手本をよく見る、どんな色を塗るか考える、手を動かすといった一連の行動は脳全体を使う。疲れた脳をバランスよく活性化させ、夢中になれる点がストレスの解消にもつながるといふ。「少ない時間や費用で手軽にできることもあり、幅広い世代の人が取り組みやすいのでは」と分析する。

効能に着目し、レクリエーションとして導入する福祉施設や社員のストレス対策として関心を持つ企業もあるという。「九州の企業や施設でも塗り絵を役立ててもらいたいんですよ。西日本さん、どうですか」。趣味の講座の枠を超えた活動を模索しているという東さんから勧められた。もし導入したら…リラックス効果で自由な視点のおもしろい記事がもっと書けるかも？

■関連本や画材、多彩に

ジュンク堂書店福岡店（福岡市・天神）には約200種類もの塗り絵本が並ぶ。数年前まで関連本は少なかったが、2013年刊行の「ひみつの花園」（ジョハンナ・バスフォード作）がフランスで流行したのを機に、15年ごろから日本でもヒット。関連本が続々と出版され、問い合わせも増えたことから、棚を広く使って展開するようになった。

細井実人店長によると、和柄、幾何学模様など塗り絵の内容は多岐にわたる。初心者向けに塗り方を分かりやすく紹介した本や「自律神経を整える」など効果をより高める工夫がされた本も登場している。「好みの本を探して、そこから取り組んではいかがでしょう」と細井店長。

雑貨店インキューブ（同市・天神）に入る画材店でも、塗り絵用画材や関連本は人気だ。担当者によると、10～20代をターゲットにした「ポケットモンスター」などのキャラクターをあしらった塗り絵が発売され、「ここ1年ほどは若い女性がよく買っていく。作品をSNSで披露する人もいますよ」といふ。

画材で最も人気なのは普通の色鉛筆としても使え、穂先が水で湿る水筆ペンでなぞると絵の具のように溶ける水彩色鉛筆。昨年は母の日のプレゼントとしても人気が高かったという。色鉛筆だけでなく和の色にこだわった色筆ペン、手軽なボールペンなど使える画材は幅広い。24～36色以上の中間色が入ったセットだと塗るときに色を選ぶ楽しさがより味わえるが、「手始めに好きな色1本だけを買ってみるのもいいですよ」と担当者は手軽さをアピールしている。

相模原・障害者殺傷事件の再発防止策を閣議決定 朝日新聞 2017年2月28日

政府は28日、相模原市の障害者殺傷事件を受けた再発防止策を盛り込んだ精神保健福祉法改正案を閣議決定した。同法に基づく措置入院を解除した患者に対する支援の継続を自治体に義務づけるのが柱。今国会に提出し、成立を図る。

改正案では、措置入院を決める都道府県や政令指定市が患者の入院中から本人や家族を交えた調整会議（個別ケース検討会議）を開き、退院後の支援計画を作成。この計画に沿って保健所のある自治体が支援する。調整会議の上部組織として、警察や病院など関係機関で構成する「精神障害者支援地域協議会」の設置も義務づける。今回の事件のように入院後に薬物使用が分かった場合の情報共有や、固い信念で犯罪を企てた場合への対応方法

を話し合うなど連絡を密にする。

措置入院や退院を判断する精神保健指定医については資格の不正取得が相次いだため、資格の更新時に実務経験を求める。指定医の判断が適切かどうかを点検するため、入院直後に弁護士や医師らでつくる第三者機関の精神医療審査会を開くことも盛り込んだ。(井上充昌)

被害者家族、正当化憤り

中日新聞 2017年3月1日

「謝ってもらっても仕方がない。知的障害者の人を殺したことを今でも何とも思っていないのだろう」。事件で息子の一矢(かずや)さん(43)が重傷を負った尾野剛志(たかし)さん(73)は、植松被告が遺族への謝罪を口にする一方で、障害者に向けた言葉がなかったことに憤る。

捜査関係者によると、植松被告は、逮捕直後の取り調べから「遺族には心から謝罪したい」とする一方、「障害者は不幸しかつくることができない」と供述していた。

尾野さんは、植松被告が本紙の取材に「障害者を育てることが想像を超えた苦労の連続と知っている」と述べたことに、家族の苦労を理由に事件を正当化しているようで、不快だと強調。「確かに苦労はあるが、子どもを愛しているから育てている。自分勝手な判断であり、家族はそう思っていない。世間の人は惑わされてほしくない」

植松被告は、横浜地検が実施した精神鑑定で、「自己愛性パーソナリティ障害」との診断が出た。人格障害の一種で、自分を特別な存在と思ひ込み、過剰な賛辞を求める傾向があるとされる。

犯罪者の心理に詳しい立正大の西田公昭教授(社会心理学)は「言葉が少ないので詳細な分析は難しい」としつつ、「(障害者を育てる苦労を知っているとの言葉は)遺族感情とずれており、『障害者の親を助けてあげた、あなたたちのためにやってあげた』と受け取れなくもない。悲劇のヒーローになりたいのかもしれない。自己愛性パーソナリティ障害の典型的な発想ともいえる」と指摘する。

精神保健福祉法 改正案の 主なポイント

- 措置入院患者が退院後も医療などの継続サポートを受け、社会復帰できる仕組みを整備
- 都道府県などが、「精神障害者支援地域協議会」を設置し、患者の入院中から個別の退院後支援計画を作成
- 退院後は、保健所設置自治体が計画に基づき相談指導を実施
- 患者が転居した場合、移転先の自治体へ計画の内容を通知

措置入院患者を支援 相模原事件受け退院後強化

東京新聞 2017年2月28日

相模原の障害者殺傷事件を受け再発防止策を検討している政府は二十八日、措置入院患者の支援強化を柱とする精神保健福祉法改正案を閣議決定した。植松聖(さとし)被告(27)は事件を起こす前に措置入院していたが、行政などから退院後の十分な支援を受けていなかったとする専門家の報告書がまとめられており、改正法案は、行政側が医療機関と協力し、患者ごとに「退院後支援計画」を策定するよう規定。政府は今国会に提出する。

改正法案は、措置入院患者が退院後も継続的に医療などのサポートを受け、社会復帰できるような仕組みを整備する内容になっている。塩崎恭久厚生労働相は二十八日の会見で「精神障害者の方々への継続的な医療福祉の面での支援をしっかりとやるようにし、同じような事件が二度と起きないようにする」と述べた。

具体的には(1)措置入院を決めた都道府県や政令市が、医療機関などと「精神障害者支援地域協議会」を設置し、患者の入院中から退院後支援計画を作成(2)患者の退院後は、帰住先の保健所設置自治体が計画に基づき相談指導を実施(3)患者が計画の期間中に転居した場合、移転元の自治体から移転先自治体へ計画の内容を通知するよう定めている。

障害者施設、虐待告発者を非難「外部発信が本当の虐待」 小笠原一樹

朝日新聞 2017年2月28日

障害者施設内での虐待を告発したことで施設側から非難されるなどして精神的苦痛を受けたとして、元職員の女性が28日、施設を運営していたNPO法人に慰謝料など約569万円の支払いを求める訴訟をさいたま地裁に起こした。

女性は、さいたま市南区の障害者就労支援施設「キャップの貯金箱」（昨年12月に閉鎖）に勤務。市によると2015年、施設の男性職員が、知的障害者の裸の写真を撮影し、職場のパソコンで誰でも見られる状態にするなどした。市は障害者総合支援法に基づく監査をして虐待と認定、改善を勧告した。

訴状によると、女性は同年3月に虐待を市に通報し、報道機関の取材にも応えた。施設側は、ウェブサイトで「外部に発信すること自体が本当の虐待」などと女性を非難し、同年10月には女性に約671万円の損害賠償を求めたという。女性は告発後に退職し、うつ病と診断された、としている。

障害者虐待防止法は虐待発見時の通報義務や、通報によって職員が不利益な取り扱いを受けないことを定めている。女性は「告発はいけないことだったのか」と話している。運営していたNPOは「担当者が不在で取材に応じられない」としている。（小笠原一樹）

障害の有無超え表現楽しむ 仙台で体験型講座

河北新報 2017年2月28日

障害のある人とない人が共に表現する喜びを分かち合うワークショップが25日、仙台市青葉区の市市民活動サポートセンターであった。昨年4月に施行された市障害者差別解消条例をPRする事業の一環だ。音楽活動を通して心のバリアフリーを目指す「とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI」が企画、主催した。

ワークショップには約40人が参加した。楽器を使った「リズム表現」では、参加者が輪になって中南米やアフリカの打楽器を演奏。少しずつ音を足し合わせ、最後は全員でリズムを奏でた。

打楽器を打ち鳴らしてリズムを奏でる参加者
聴覚と身体の重複障害がある鈴木照代さん（49）＝宮城野区＝は「音は聞こえないが、太鼓の振動やみんなの表情を通じて一体感を味わえた」と充実の表情。「音楽の楽しみ方が広がった」と笑顔で話した。

手をつないだままもつれた体を解きほぐす
「人間知恵の輪」、思い切り発声したり歌ったりする「ボイス表現」もあった。

実行委は、昨年12月から同様のワークショップやダンスイベントを週1回のペースで開催しており、3月19日には集大成となるフィナーレイベントを青葉区のせんだいメディアテークで開く。

実行委事務局長の菊地新生（あらき）さん（42）は「フィナーレイベントでは、障害の有無を超えて表現する楽しさを多くの人に体感してほしい」と呼び掛ける。



障害者ノルディックスキーW杯に向け 選手が抱負 NHKニュース 2017年2月28日

3月に日本で初めて開催される、障害者ノルディックスキーの世界大会に向けた記者会見が東京都内で開かれ、パラリンピックの金メダリストの新田佳浩選手が「結果にこだわっていききたい」と意気込みを述べました。

障害者ノルディックスキーのワールドカップは、IPC＝国際パラリンピック委員会が主催する国際大会で、今シーズンは世界各地で合わせて4試合あり、この大会の成績などをもとに、来年のピョンチャンパラリンピックの各国の出場枠が決まります。

このうち、来月18日から22日まで行われる第4戦が、札幌市の西岡バイアスロン競技場で開催されます。

障害者ノルディックスキーのワールドカップが日本で開かれるのは初めてで、クロスカントリースキーとバイアスロンがそれぞれ3つの障害のクラスに分かれて行われます。

大会に向けた記者会見が28日に都内で開かれ、日本障害者スキー連盟の猪谷千春会長が「多くの方に障害者のノルディックスキーを知っていただく絶好の機会で、一層競技が発展することを期待する」と述べました。

バンクーバーパラリンピックのクロスカントリーで、2つの金メダルを獲得した日本のエースの新田選手は「日本代表が一丸となり、若い選手を引き連れて結果にこだわっていききたい。距離の短いクラシカルショートで金メダルをとりたい」と意気込みを話しました。

障害者ノルディックスキーで、今シーズン、ワールドカップ第1戦で金メダルを獲得するなど好調の21歳、阿部友里香選手は「去年から取り組んできた筋力トレーニングの成果が出ている。クロスカントリーとバイアスロンの両方でメダルを狙いたい」と意気込みを話しました。

地域見守りコンビニ...十日町市

読売新聞 2017年03月01日

◆セブン-イレブンと協定

十日町市は、コンビニ大手のセブン-イレブン・ジャパンと高齢者などへの支援に関する協定を締結した。市内11の店舗網と連携し、高齢者や障害者、子どもへの見守り活動に取り組む。

セブン-イレブンは、カタログ販売を各店舗で実施しており、商品の宅配の際に、高齢者や障害者などに異常がないかどうかを確認する。店舗での接客の際も、体の具合が悪かったり認知症が疑われたりする様子などがあつた場合は市に通報してもらう。

超高齢社会の中で、セブン-イレブン・ジャパンはこれまで、全国の300を超える自治体と同様の協定を結び、地域の店舗が支援に取り組んでいる。県内では県との間で締結しているが、市町村との協定は同市が初めてという。

市によると、昨年4月現在の市内の65歳以上の高齢化率は35・9%で県平均を大きく上回り、40%を超える地区もある。一人暮らしの高齢者は市内全体で約1850人に上っている。

このため市内では、就労支援施設に通う障害者が描いた絵手紙を郵便局が高齢者宅に届ける取り組みや、配食サービス事業者による見守りなども行われている。市では「高齢者や障害者が住み慣れた地域の中で安心して暮らせるまちづくりを推進していきたい」としている。

「震災障害者」の実態調査を NPOが厚労省に要望

産経新聞 2017年2月28日

「震災障害者」の実態把握などを要望する阪神大震災で被災した障害者ら。左端は古屋範子厚労副大臣＝28日午後、厚労省

阪神大震災で被災し障害を負った人たちが28日、厚生労働省を訪れ、国として東日本大震災などでの「震災障害者」の実態を調査するよう要請した。行政による支援体制の確立も求め、面会した同省の古屋範子副大臣は「一人一人の実情に合わせた支援が重要。努力していき



たい」と述べた。

要請したNPO法人「よろず相談室」（神戸市東灘区）などによると、阪神大震災を巡っては、兵庫県と神戸市が平成23年に、震災障害者は349人との調査結果を公表している。

同法人は要望書の中で「震災で後遺症を負った人や障害者になった人について、ほとんど知られていない」と現状を問題視。東日本大震災や熊本地震のほか、今後大規模震災があった場合、国として早急に実態を把握する必要があると訴えている。

また、支援策として（1）震災障害者と家族が交流し、悩みを共有できる場の設置（2）治療費の免除期間延長や見舞金の対象範囲拡大—を求めた。

医療観察法の鑑定入院で、知的障害者が国賠訴訟 東京新聞 2017年3月1日

東京都内に住む知的障害のある男性が二月、心神喪失者等医療観察法（医療観察法）に基づく不要な鑑定入院を強いられたとして、国に損害賠償を求める訴えを東京地裁に起こした。同法は重大な罪を犯し、犯行時に心神喪失などの状態にあった精神障害者を対象に特別な治療をするという趣旨の法律で、知的障害者は対象外だ。当事者らは「今回の誤認には、障害者は閉じ込めておけという差別意識が根底にある」と批判している。（白名正和）

不正受給 介護業者、無許可で送迎 1.5億円 指定取り消し 東大阪

毎日新聞 2017年2月28日

知的障害者らの外出支援事業で市の補助金など約1億5000万円を不正受給したとして、東大阪市が28日、社会福祉法人「青山会」が運営する介護事業所「ハッピークラブ」（同市旭町）の事業者指定を取り消したことが分かった。市などが明らかにした。事業所の車で利用者らを送迎していたが、介護タクシーの許可などを得ておらず、事実上の白タク行為だった。

市などによると、不正があったのはガイドヘルパーが買い物などで利用者らを引率する移動支援事業。

介護事業所が不正受給＝補助金など1億5千万円超—東大阪

時事通信 2017年3月1日

大阪府東大阪市の社会福祉法人「青山会」が運営する介護事業所が5年間にわたり、市の補助金など計約1億5690万円を不正に受給していたとして、市は28日、事業所の資格を3月31日付で取り消すと発表した。

問題になったのは東大阪市内の介護事業所「ハッピークラブ」。市によると、必要な許可を得ずに高齢者や知的障害者らを車で送迎していたのに、補助金などを受けるため公共交通機関を使ったと虚偽の記録を作成したほか、通院介助の回数を改ざんするなどしていた。

不正受給は2012年2月以降、補助金が約1億1220万円、介護給付費は約4470万円に上る。従業員の内部告発で発覚した。市の調査に事業所側は「補助金などがないと採算が取れない」と説明したという。

青山会の東口謡子理事長は東大阪市役所で記者会見し、「不正を行ったことは深く反省している。信頼回復に努めたい」と謝罪した。

小説仕立ての図書館学 捜査協力要請、差別本…さまざまな場面を想定し 元太宰府市民図書館長坂井さんが出版【福岡県】

西日本新聞 2017年03月01日

県立図書館司書や太宰府市民図書館館長を務めた坂井暉（あきら）さん（81）＝春日

市＝の著書「図書館つれづれ草」（樹村房）が、図書館関係者らの間で「面白い」と評判になっている。副題は「ライブラリアンシップを考える現場ストーリー集」。さまざまな問題に直面する図書館人のあるべき姿を小説仕立てで描いた。

14編の物語で構成。その1は「チーフ、警察の方が見えています」で始まる。県立図書館に来たのは県警捜査1課長。殺人事件に使われた凶器が電話帳の複写物で包まれており、それを複写した人物の名を記した「複写願い」を見せてくれと要請に来たのだ。

出版された「図書館つれづれ草」を手にする坂井暉さん

「重要な証拠品になるかもしれない」と言う1課長に、チーフ司書の中原は「本人のプライバシーに当たり、お見せできません」と断る。「館内を捜索しますよ」とすごむ相手に、中原は「令状はありますか？」と応じ、1課長は引き下がる。

話はそこで終わらない。中原は自省する。「閲覧拒否は社会正義と言えるか。請求は公共の福祉に当てはまるものではなかったか?」。そして、戦時中の思想統制を教訓にした1954年の「図書館の自由に関する宣言」から、拒否は当然。ただ、裁判所が令状発付を認めれば受け入れざるを得ないとの結論に達する。

このほか、委託司書導入や「ピノキオの冒険」を障害者差別本とする抗議への対応などなど。坂井さんの分身の「中原」が、図書館の現場で起きる諸問題に対応していく。県立図書館在職中に慶応大法学部などを通信教育で卒業し、九州大大学院法学研究科で学んだ蓄積も生かされている。

出版は近畿大通信教育部の非常勤講師として司書課程を教えた際、体験談を柔らかタッチでまとめた資料が、図書館関連の本を手掛ける樹村房の社長の目に留まったのがきっかけ。『今までにないスタイル。ぜひ出版しましょう』と声をかけられた。出版前の昨年4月から春日市の高齢者施設で暮らす坂井さんはそう振り返る。

慶応大で坂井さんを指導した高山正也元国立公文書館長（東京）は本を一読し「図書館学の本の多くは硬く教科書的だが、この本は読みやすく、本質を突いている」と絶賛している。



養蚕業の伝統 守ります 読売新聞 2017年03月01日
「ぐんま養蚕学校」の修了証書を受け取った1期生の新井さん（左）（28日、前橋市総社町総社の県蚕糸技術センターで）

◆農家へ一歩 修了証書授与

養蚕業を始めたい人に研修を行う、県の「ぐんま養蚕学校」の修了証書授与式が28日、前橋市で開かれた。1期生8人が証書を受け取り、養蚕農家への第一歩を踏み出した。

8人は昨年3月、県内の養蚕の現状を説明する基礎講座に参加。5月に正式入校し、講義を受けたり養蚕農家を手伝ったりしながら懸命に学んできた。

証書を受け取った新井利典さん（52）（高崎市）は「農家になりたいと思い、行政の支援が手厚い養蚕をやると決めた。かつて実家で養蚕を手伝っていたが、研修で本格的に学べて良かった」と笑顔を見せた。5月から地元で養蚕を始める。

障害者就労支援施設「カラフル」（渋川市）の大山剛理事長（44）も研修を終え、5月から知的障害者らと養蚕に取り組む。大山理事長は「内職よりも養蚕の方が利用者に多くの賃金を支払える。群馬の伝統産業を守るために頑張りたい」と話していた。

県内の養蚕農家は現在、約130軒。平均年齢は75歳で、新規参入者の確保が急務だ。

県は23日に開く2回目の基礎講座の受講者を募っている。希望者は、21日までに県蚕糸技術センター（027・251・5145）に申し込む。

支援看護師、応募ゼロ 大津の小学校、医療的ケア必要も 京都新聞 2017年02月28日
学校で医療的ケアが必要な児童のため大津市教育委員会が2人の看護師を募集したところ、応募者がなく再募集をかける事態となっている。4月の新学期に採用が間に合うか不透明で、28日の市議会一般質問では採用条件を良くするなど早急な対応を求める指摘が相次いだ。

医療的ケアは、たんの吸引や胃ろう処置といった医療行為。市教委は医療的ケアの必要な子どもが入学すると、看護師資格を持つ特別支援員をその都度1年ごとに雇って教室に配置してきた。2016年度は1人を配置している。

4月から市内の小中学校で2人分の支援員が必要となったため、市教委は2月7～16日の間にハローワークなどを通じて募集したが、応募がなかった。現在、3月6日まで再募集をしている。支援員の時給は1150円で、県特別支援学校の学校看護師の1560円より低い。一方で、支援員と同じ待遇ながら、保健室の養護教諭として働く看護師には応募があるという。支援員は夏休みなど授業のない期間は出勤しないが、養護教諭として勤務する看護師は休み期間中も出勤するため、収入に差が出ることも一因とみられるという。

4月までに採用できなければ、保護者が毎日学校でつきそうことになる。支援員の配置は障害者差別解消法が求める合理的配慮の提供でもあり、市議会では改田勝彦市議（公明党）と林まり市議（共産党）が「待遇を見直し、4月までに直ちに対応する必要がある」などと指摘した。桶谷守教育長は、支援員の時給は市の他部署で雇う看護師に合わせていることを説明。待遇改善には条例改正や予算確保が必要になるが「応募者がいなかったのは賃金の問題だと思っている。時期的には検討が必要だが、早い段階で対応していきたい」と答弁した。

大阪府警と自治体が虐待情報共有

ytv ニュース 2017年3月1日

大阪府警は大阪府と市、堺市の3つの自治体と虐待に関する情報共有を強化する協定を結んだ。保護者のDVや自殺未遂などの情報を府警が児童相談所に提供、虐待の疑いで保護された子どもが施設から返される際に、児童相談所が府警に連絡することになる。

独身者の親同士で交流会、参加者募集 淡路で3月

神戸新聞 2017年2月28日

独身の子どもを持つ親たちが交流し、出会いのきっかけづくりにつなげる「えんむすび親同士の交流会」が3月24日、兵庫県淡路市志筑のしづのおだまき館（淡路市立中央公民館）である。淡路島内3市の社会福祉協議会が参加者を募っている。島内在住者が対象。お茶を飲みながら歓談し、情報交換する。午後2時開会。参加費600円。希望者は17日までに各市の社協に申し込む。洲本市社協TEL0799・35・1166▽南あわじ市社協TEL0799・44・3007▽淡路市社協TEL0799・62・5214

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行